

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
やさしく かしく たくましい 北小の子の育成 ～どの子にも楽しい学校を どの子にもわかる授業を どの子もかがやく毎日～ (児童像) ・思いやりのある言動ができる子ども ・伝え合い、学び合う子ども ・夢や目標に向かって、最後までやりぬく子ども	1 お互いを理解し、認め合い、思いやりのある言動ができる力を育てる。 2 授業を工夫し、確かな学力の充実を図る。 3 達成感を味わえる活動を取り入れ、人とのつながりを深めさせる。 4 ほめて伸ばす生徒指導の充実を図る。 5 児童理解を充実し、特別支援教育の視点を重視した授業づくりを図る。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<b>【学力状況調査の結果】</b> 全国 ○国語A問題： 県平均、全国平均より高い。 ○国語B問題： 県平均、全国平均より高い。 ○算数A問題： 県平均、全国平均より高い。 ○算数B問題： 県平均、全国平均より高い。 ○国語A問題の目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く問題： 本校92.1% (県：79.5%、全国：79.7%)。 ○算数A問題の6+0、5×2の加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題： 本校86.8% (県：78.4%、全国：66.6%)。 ○算数B問題の割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題： 本校18.4% (県：27.6%、全国：29.3%)。 県【3年～5年】 ○国語A問題： 県平均より低い。 ○国語B問題： 県平均より低い。 ○算数A問題： 県平均より低い。 ○算数B問題： 県平均より低い。 ○3年生の国語では「作文」「説明文の内容を読み取る」、算数では「かけ算」「長さ・かさ」に課題が見られる。 ○4年生の国語では「物語の内容を読み取る」「漢字を読む」、算数では「円と球」「三角形」「口を使った式」に課題が見られる。 ○5年生の国語は全国平均と同程度、算数では「計算のきまり・代わり方調べ」「分数」に課題が見られる。	<b>【学習状況調査の結果】</b> ○平日にゲームを1時間以上する児童の割合は県平均より少ない。 ○テレビ等の視聴時間のルールを家の人と決めている割合は県平均に比べて高い。 ○家庭での学習時間(1時間以上)の割合が県平均に比べて若干低い。 ○家で、自分で計画を立てて勉強している、という項目に肯定的に答えた児童は、県平均と比べて若干低い。 ○読書が好き・どちらかといえば好きと答えた児童が9割おり、県平均と比べて高い。 ○平日の1日あたりの読書時間(30分以上)の割合は県平均と比べて若干高い。 ○毎朝、児童会を中心にあいさつ運動に取り組んでおり、「あいさつ」の項目は県平均より高い。 ○国語の授業の内容がよく分かる、と答えた児童の割合は県平均と同程度。 ○算数の授業の内容がよく分かる、と答えた児童の割合は6年生は県平均と同程度だが、5年生は県平均と比べて低い。
--	--

成果

○朝のモジュール学習で算数の習熟プリントや漢字練習を繰り返しおこなうことで、基礎基本の徹底につながった。 ○漢字指導のやり方を研修で交流し、よいところを共通理解して統一した指導を行うことで、読み書きの定着につながった。 ○放課後、夏休みに補充学習を行い、学習習慣の定着、基礎基本の徹底につながった。
---

課題

○初見の問題に弱い。改めてよく読んで考えればできるが、情報量に圧倒されている。 ○問題の形式に慣れていない。答え方だけでなく、時間の使い方にも課題があり、無回答率が後半につれ上がる傾向が見られる。 ○問題をよく読まず、目の前の情報のみで答える傾向がある。よく読み、情報をまとめる力に課題が見られる。 ○段落に分けて書く、時数制限にまとめて書くなど、「書く」ことに課題が見られる。 ○算数は、九九・単位換算など基礎的な項目が定着していない内容が見られた。
--

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎的な内容を定着させる	今年度末	正解率90%	・朝学習を中心に、復習用教材を活用し、基礎力を高める。 ・単元導入前に復習を行い、レディネスチェックを行う。 ・個別指導の充実を図る。	・朝のモジュール学習で、問題データベース等を活用しながら習熟を図る活動を実施できた。 ・放課後学習を実施し、個別指導を行うことができた。	B	・年度末の学年の総復習で、学力状況調査で課題が見られた内容を中心に、復習を充実できた。 ・業者テストにおいては、ほぼ正	B	・各学年、学級内において学力差が大きく、個別に支援を要する児童への対応が必要。 ・家庭学習および自主学習の習慣が定着していない児童も見られ、家庭への啓発が必要。
様々な問題の形式に対応できるようにする。	来年度の学力テスト	無回答率を下げる	・単元テスト以外にも補充テストを行い、様々な形式に慣れさせる。答え方や時間の使い方指導する。	・学期末の復習時間に学習到達度確認テスト等を活用し、情報量の多い問題や、発展的な問題にも取り組ませた。	B	・年度末の復習で、昨年までの学力状況調査の問題に取り組む等、形式に慣れる練習をした。	B	・よく読んで考える児童が増えているが、発展的な問題に弱い傾向は改善されていない。 ・時間制限、字数制限等様々な形式に慣れることができるよう、授業の中に意図的に取り入れることを次年度も継続して行う。
書く力を高める	今年度末	自分なりの言葉で、授業の振り返りを書くことができる	・毎時授業のまとめ、振り返りを脱速させ、書く力を高める。3つ程度のキーワードを提示する等しながら、発達段階に応じた指導を行う。 ・新出漢字の学習で、文作りの際にも主語、述語を書かせる。 ・授業の中に、字数・時間を区切る等の制限を加えて作文する練習を取り入れる。	・説明文の学習などで、字数制限を加えてまとめる練習を取り入れた。少しずつまとめる活動に慣れてきている。	B	・授業のまとめ、振り返りを毎時書くことを意識させ、キーワードを提示しなくても自分なりの言葉で振り返りを書く児童が増えた。	B	・次年度は朝のモジュール学習を国語の時間に固定し、書く力を高めるための活動を充実させる。

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

<b>学力向上共通重点3項目</b> ○家庭学習の100%提出をめざす(毎日一定の時刻・時間に、きちんと学習に向かう習慣づけをする) ○チャイム同時スタート チャイム同時終了(授業者自身が開始時刻前にスタンパして、児童生徒を待つ 終了時刻も厳守して時間のけじめの大切さを実感させる) ○授業の中に学び合いを「見る」「聞く」「話す」「伝え合う」 <b>生徒指導重点2項目</b> ○ことばづかい(言葉遣いを正しくすることで、より豊かな人間関係を築かせる) ○きれいな教室(教室環境を整えることで、落ち着いた心で生活させる)
---

保護者・地域へ理解・協力を求めること

○家庭学習の手引きを児童数印刷配布し、学習時間の目安や家庭学習の約束等、学級懇談や個人懇談で保護者に呼びかける。 ○中学校ブロックで日ごちをそろえてノーマディアデーの取り組みを行い、家庭の協力を求める。 ○あいさつの励行を協力いただく。 ○地域行事への参加を奨励してもらう。 ○基本的な生活習慣の確立(早寝・早起き・朝ご飯)をお願いする。
---